



# コンフィギュレーションのインポート/エクスポート

---

- [コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて \(1 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションのインポート/エクスポート用暗号キーの設定 \(2 ページ\)](#)
- [FXOS コンフィギュレーションファイルのエクスポート \(4 ページ\)](#)
- [自動設定エクスポートのスケジューリング \(6 ページ\)](#)
- [設定エクスポート リマインダの設定 \(7 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションファイルのインポート \(8 ページ\)](#)

## コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて

Firepower 4100/9300 シャーシの論理デバイスとプラットフォームのコンフィギュレーション設定を含む XML ファイルをリモートサーバにエクスポートするコンフィギュレーションのエクスポート機能を使用できます。そのコンフィギュレーションファイルを後でインポートして Firepower 4100/9300 シャーシに迅速にコンフィギュレーション設定を適用し、よくわかっている構成に戻したり、システム障害から回復させたりすることができます。

### ガイドラインと制限

- FXOS 2.6.1 から、暗号キーを設定できるようになりました。コンフィギュレーションをエクスポートする前に、暗号キーを設定する必要があります。エクスポートしたコンフィギュレーションをインポートするときには、システムに同じ暗号キーを設定する必要があります。エクスポート時に使用したものと一致なくなるように暗号キーを変更した場合、インポート操作は失敗します。エクスポートした各コンフィギュレーションに使用した暗号キーを必ず記録しておいてください。
- コンフィギュレーションファイルの内容は、修正しないでください。コンフィギュレーションファイルが変更されると、そのファイルを使用するコンフィギュレーションインポートが失敗する可能性があります。

- 用途別のコンフィギュレーション設定は、コンフィギュレーションファイルに含まれていません。用途別の設定やコンフィギュレーションを管理するには、アプリケーションが提供するコンフィギュレーションバックアップツールを使用する必要があります。
- Firepower 4100/9300 シャーシへのコンフィギュレーションのインポート時、Firepower 4100/9300 シャーシのすべての既存のコンフィギュレーション（論理デバイスを含む）は削除され、インポートファイルに含まれるコンフィギュレーションに完全に置き換えられます。
- RMA シナリオを除き、コンフィギュレーションファイルのエクスポート元と同じ Firepower 4100/9300 シャーシだけにコンフィギュレーション ファイルをインポートすることをお勧めします。
- インポート先の Firepower 4100/9300 シャーシのプラットフォーム ソフトウェア バージョンは、エクスポートしたときと同じバージョンになるはずですが、異なる場合は、インポート操作の成功は保証されません。シスコは、Firepower 4100/9300 シャーシをアップグレードしたりダウングレードしたりするたびにバックアップ設定をエクスポートすることを推奨します。
- インポート先の Firepower 4100/9300 シャーシでは、エクスポートしたときと同じスロットに同じネットワークモジュールがインストールされている必要があります。
- インポート先の Firepower 4100/9300 シャーシでは、インポートするエクスポートファイルに定義されているすべての論理デバイスに、正しいソフトウェアアプリケーションイメージがインストールされている必要があります。
- インポートするコンフィギュレーションファイルに、そのアプリケーションにエンドユーザーライセンス契約書（EULA）がある論理デバイスが含まれていると、コンフィギュレーションをインポートする前に、そのアプリケーションの EULA が Firepower 4100/9300 シャーシで受け入れられている必要があります。受け入れられていない場合、操作は失敗します。
- 既存のバックアップファイルが上書きされるのを回避するには、バックアップ操作内のファイル名を変更するか、既存のファイルを別の場所にコピーします。



(注) FXOS のインポート/エクスポートは FXOS の設定のみをバックアップするため、ロジックアプリを個別にバックアップする必要があります。FXOS の設定をインポートすると、論理デバイスが再起動され、工場出荷時のデフォルト設定でデバイスが再構築されます。

## コンフィギュレーションのインポート/エクスポート用暗号キーの設定

コンフィギュレーションをエクスポートするときに、FXOS はパスワードやキーなどの機密データを暗号化します。

FXOS 2.6.1 から、暗号キーを設定できるようになりました。コンフィギュレーションをエクスポートする前に、暗号キーを設定する必要があります。エクスポートしたコンフィギュレーションをインポートするときには、システムと同じ暗号キーを設定する必要があります。エクスポート時に使用したものと一致しなくなるように暗号キーを変更した場合、インポート操作は失敗します。エクスポートした各コンフィギュレーションに使用した暗号キーを必ず記録しておいてください。

2.6.1 より前のリリースの FXOS からエクスポートしたコンフィギュレーションを FXOS 2.6.1 以降にインポートする場合、システムは暗号キーをチェックせずにインポートを許可します。



- (注) インポート先のプラットフォームのソフトウェアバージョンが、エクスポート実行時と同じバージョンではない場合、インポート操作を正常に実行できる保証はありません。シスコは、Firepower 4100/9300 シャーシをアップグレードしたりダウングレードしたりするたびにバックアップ設定をエクスポートすることを推奨します。

[バージョンの設定 (Set Version) ] オプションを使用するとともに、Firepower Threat Defense 論理アプライアンスが新しいソフトウェアにアップグレードされるたびにバックアップ設定をエクスポートします。これにより、新しいスタートアップバージョンがアップグレードされたバージョンのソフトウェアリリースと一致するようになります。

## 手順

**ステップ 1** FXOS CLI から、セキュリティ モードに入ります。

### scope security

例 :

```
Firepower# scope security
Firepower /security #
```

**ステップ 2** 暗号キーを設定します。

### set password-encryption-key

キーを入力します。 *encryption\_key*

キーを確認します。 *encryption\_key*

*Encryption\_key* の長さは 4 ~ 40 文字である必要があります。

例 :

```
Firepower /security #set password-encryption-key
Enter a key:
Confirm the key:
Firepower /security* #
```

**ステップ 3** 設定をコミットします。

### commit-buffer

例：

```
Firepower /security* #commit-buffer
Firepower /security #
```

## FXOS コンフィギュレーション ファイルのエクスポート

エクスポート設定機能を使用して、Firepower 4100/9300 シャーシの論理デバイスとプラットフォーム構成設定を含む XML ファイルをリモート サーバまたはにエクスポートします。

始める前に

「[コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて](#)」を確認してください。

手順

**ステップ 1** コンフィギュレーション ファイルをリモート サーバにエクスポートするには、次の操作を行います。

**scope system**

**export-config** *URL* **enabled** **commit-buffer**

次のいずれかの構文を使用してインポートされるファイルの URL を指定します。

- **ftp://username@hostname/path/image\_name**
- **scp://username@hostname/path/image\_name**
- **sftp://username@hostname/path/image\_name**
- **tftp://hostname:port-num/path/image\_name**

(注) ファイル名を含むフルパスを指定する必要があります。ファイル名を指定しないと、指定したパスに非表示ファイルが作成されます。

例：

```
Firepower-chassis# scope system
Firepower-chassis /system # export-config scp://user1@192.168.1.2:/export/cfg-backup.xml
enabled
Firepower-chassis /system/export-config # commit-buffer
```

**ステップ 2** エクスポート タスクのステータスを確認するには以下を行います。

**scope system**

**scope export-config** *hostname*

**show fsm status**

例 :

```
Firepower-chassis# scope system
Firepower-chassis /system # scope export-config 192.168.1.2
Firepower-chassis /system/export-config # show fsm status
```

```
Hostname: 192.168.1.2
```

```
FSM 1:
  Remote Result: Not Applicable
  Remote Error Code: None
  Remote Error Description:
  Status: Nop
  Previous Status: Backup Success
  Timestamp: 2016-01-03T15:32:08.636
  Try: 0
  Progress (%): 100
  Current Task:
```

**ステップ 3** 既存のエクスポート タスクを表示するには以下を行います。

```
scope system
show export-config
```

**ステップ 4** 既存のエクスポート タスクを変更するには以下を行います。

```
scope system
scope export-config hostname
```

エクスポート タスクを変更するには、次のコマンドを使用します。

- **{enable|disable}**
- **set description** *<description>*
- **set password** *<password>*
- **set port** *<port>*
- **set protocol** {ftp|scp|sftp|tftp}
- **set remote-file** *path\_and\_filename*
- **set user** *<user>*

**ステップ 5** エクスポート タスクを削除するには以下を行います。

```
scope system
delete export-config hostname
commit-buffer
```

## 自動設定エクスポートのスケジューリング

スケジューリングされたエクスポート機能を使用して、Firepower 4100/9300 シャーシの論理デバイスとプラットフォーム構成設定を含む XML ファイルをリモートサーバまたはにエクスポートします。エクスポートは、毎日、毎週、または2週間ごとに実行されるようにスケジューリングできます。設定のエクスポートは、スケジューリングされたエクスポート機能がいつ有効になるかに基づき、スケジューリングに従って実行されます。そのため、たとえば週ごとのスケジューリングされたエクスポートが水曜日の 10:00pm に有効になる場合、システムは新しいエクスポートを水曜日の 10:00pm ごとに開始します。

エクスポート機能の使用に関する重要な情報については、「[コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて](#)」を参照してください。

### 手順

スケジューリングされたエクスポート タスクを作成するには、次のようにします。

- a) ポリシー設定をエクスポートする範囲を設定します。

**scope org**

**scope cfg-export-policy default**

- b) エクスポート ポリシーを有効にします。

**set adminstate enable**

- c) リモートサーバとの通信で使用するプロトコルを指定します。

**set protocol {ftp|scp|sftp|tftp}**

- d) バックアップファイルを格納する場所のホスト名または IP アドレスを指定します。サーバ、ストレージレイ、ローカルドライブ、または Firepower 4100/9300 シャーシがネットワーク経由でアクセス可能な任意の読み取り/書き込みメディアなどを指定できます。

IP アドレスではなくホスト名を使用する場合は、DNS サーバを設定する必要があります。

**set hostname hostname**

- e) デフォルト以外のポートを使用する場合は、ポート番号を指定します。

**set port port**

- f) リモートサーバにログインするためのユーザ名を指定します。プロトコルが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。

**set user username**

- g) リモートサーバのユーザ名のパスワードを指定します。プロトコルが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。

**set password *password***

- h) ファイル名を含むコンフィギュレーションファイルをエクスポートする場所のフルパスを指定します。ファイル名を省略すると、エクスポート手順によって、ファイルに名前が割り当てられます。

**set remote-file *path\_and\_filename***

- i) 設定を自動的にエクスポートするスケジュールを指定します。これは、[Daily]、[Weekly]、または [BiWeekly] のいずれかにできます。

**set schedule {*daily|weekly|bi-weekly*}**

- j) トランザクションをシステム設定にコミットします。

**commit-buffer**

例：

```
Firepower-chassis# scope org
Firepower-chassis /org # scope cfg-export-policy default
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy # set adminstate enable
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # set protocol scp
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # set hostname 192.168.1.2
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # set remote-file /export/cfg-backup.xml
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # set user user1
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # set password
Password:
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # set schedule weekly
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # commit-buffer
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy #
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy # show detail
```

```
Config Export policy:
  Name: default
  Description: Configuration Export Policy
  Admin State: Enable
  Protocol: Scp
  Hostname: 192.168.1.2
  User: user1
  Remote File: /export/cfg-backup.xml
  Schedule: Weekly
  Port: Default
  Current Task:
```

## 設定エクスポートリマインダの設定

設定エクスポートが特定の日数実行されていないときにシステムにエラーを生成させるには、エクスポートリマインダ機能を使用します。

デフォルトでは、エクスポートリマインダは 30 日間の頻度で有効になっています。



- (注) リマインダの頻度が、スケジュールされたエクスポートポリシーの日数（毎日、毎週、または隔週）よりも短いと、エクスポートリマインダ障害メッセージ（「Config backup may be outdated」）が表示されます。たとえば、エクスポートスケジュールが毎週で、リマインダの頻度が5日間の場合、リマインダの間隔内に設定がエクスポートされないと、この障害メッセージが5日ごとに生成されます。

## 手順

設定エクスポート リマインダを作成するには次のようにします。

**scope org**

**scope cfg-export-reminder**

**set frequency days**

**set adminstate {enable|disable}**

**commit-buffer**

例：

```
Firepower-chassis# scope org
Firepower-chassis /org # scope cfg-export-reminder
Firepower-chassis /org/cfg-export-reminder # set frequency 10
Firepower-chassis /org/cfg-export-reminder* # set adminstate enable
Firepower-chassis /org/cfg-export-reminder* # commit-buffer
Firepower-chassis /org/cfg-export-reminder # show detail
```

```
Config Export Reminder:
  Config Export Reminder (Days): 10
  AdminState: Enable
```

# コンフィギュレーション ファイルのインポート

設定のインポート機能を使用して、Firepower 4100/9300 シャーシからエクスポートした構成設定を適用できます。この機能を使用して、既知の良好な構成に戻したり、システム障害を解決したりできます。

## 始める前に

「[コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて](#)」を確認してください。



## 手順

**ステップ 1** コンフィギュレーション ファイルをリモート サーバからインポートするには、次の操作を行います。

**scope system**

**import-config** *URL* **enabled**

**commit-buffer**

次のいずれかの構文を使用してインポートされるファイルの URL を指定します。

- **ftp://username@hostname/path/image\_name**
- **scp://username@hostname/path/image\_name**
- **sftp://username@hostname/path/image\_name**
- **tftp://hostname:port-num/path/image\_name**

例 :

```
Firepower-chassis# scope system
Firepower-chassis /system # import-config scp://user1@192.168.1.2:/import/cfg-backup.xml
enabled
Warning: After configuration import any changes on the breakout port configuration will
cause the system to reboot
Firepower-chassis /system/import-config # commit-buffer
```

**ステップ 2** インポート タスクのステータスを確認するには以下を行います。

**scope system**

**scope import-config** *hostname*

**show fsm status**

例 :

```
Firepower-chassis# scope system
Firepower-chassis /system # scope import-config 192.168.1.2
Firepower-chassis /system/import-config # show fsm status

Hostname: 192.168.1.2

FSM 1:
  Remote Result: Not Applicable
  Remote Error Code: None
  Remote Error Description:
  Status: Import Wait For Switch
  Previous Status: Import Config Breakout
  Timestamp: 2016-01-03T15:45:03.963
  Try: 0
  Progress (%): 97
  Current Task: updating breakout port configuration(FSM-STAGE:sam:dme:
MgmtImporterImport:configBreakout)
```

**ステップ 3** 既存のインポート タスクを表示するには以下を行います。

**scope system**

**show import-config**

**ステップ 4** 既存のインポート タスクを変更するには以下を行います。

**scope system**

**scope import-config** *hostname*

インポート タスクを変更するには、次のコマンドを使用します。

- **{enable|disable}**
- **set description** *<description>*
- **set password** *<password>*
- **set port** *<port>*
- **set protocol** {ftp|scp|sftp|tftp}
- **set remote-file** *path\_and\_filename*
- **set user** *<user>*

**ステップ 5** インポート タスクを削除するには以下を行います。

**scope system**

**delete import-config** *hostname*

**commit-buffer**

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。